

1 調査名称：倉敷市総合交通戦略策定調査

2 調査主体：倉敷市

3 調査圏域：倉敷都市圏

4 調査期間：平成18年度～平成19年度

5 調査概要：

バスなどの公共交通は、高齢者などにとって重要な移動手段であり、さらなる高齢社会に対応するためにも必要不可欠なものであるが、本市における公共交通は、自家用車の依存の高まりから、利用者が減少し、減便や廃止が進むことにより、急速に市民の足が奪われている状況である。また、自家用車利用の増大は、CO₂排出量が増加するなど、環境負荷の少ない公共交通を軸とした喫緊の対策が必要となっている。

このことから、だれもが移動しやすく利用しやすい、環境負荷の少ない公共交通を「守り」「育てる」方策を検討し、市全体の公共交通の今後のあるべき姿を明らかにすることを目的として、平成18～19年度の2カ年で「倉敷市総合交通戦略」を策定するものである。

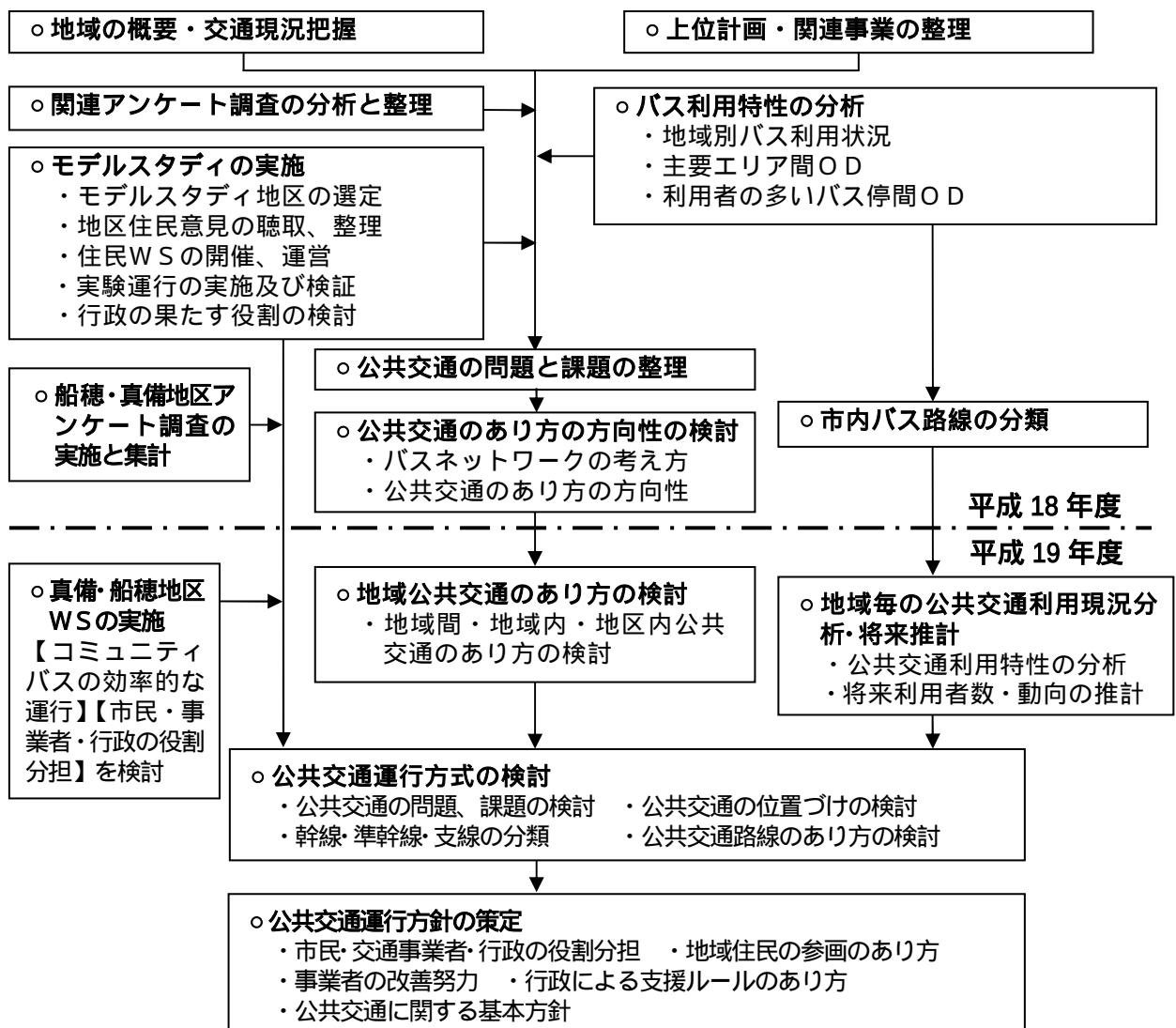
< 調査成果 >

1 調査目的

本調査は、公共交通の廃止や減便が相次ぐ中、急速に市民の足が奪われている状況であり、喫緊の公共交通対策が必要となっているため、だれもが、移動しやすく、利用しやすい公共交通を「守り」、「育てる」方策を検討し、市全体の公共交通の今後のあるべき姿を明らかにすることを目的とし、平成18～19年度の2カ年で「倉敷市総合交通戦略」を策定するものである。

平成19年度調査では、公共交通を都市構造や利用者ニーズ等によって分類し、地域市民・地域企業・公共交通事業者・行政の役割分担を明確にした上で、路線分類ごとに施策展開の方針を検討するものである。

2 調査フロー



3 調査圏域図



4 調査成果

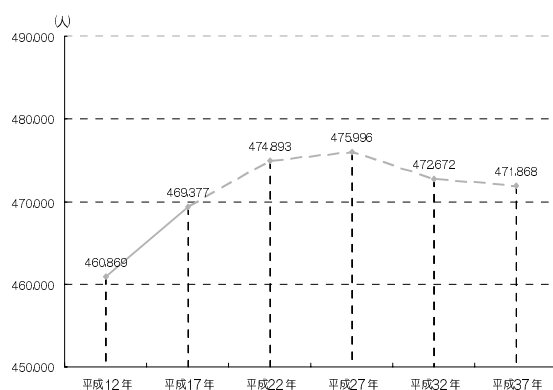
1 倉敷市における現状と課題

1 - 1 倉敷市の現状

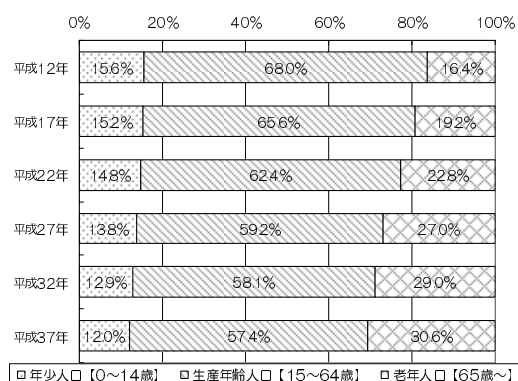
- ・本市は、合併により市域を拡大しており、各地域・地区拠点等を中心に、都市的機能を有する核が点在する多核型都市である。
- ・各地域・地区の拠点や臨海部の産業拠点など、拠点機能を活かし強化するとともに、今以上に地域間の連携が必要となり、地域を結ぶ公共交通の重要性が増しつつある。
- ・本市の人口は、10年後をピークに減少することから、今後、高齢化が進むと考えられる。
- ・駅前等の商店街の衰退や地球温暖化をはじめとする環境問題に対応するためにも、地域公共交通の活性化・再生の必要性はますます大きなものとなっている。

少子高齢社会の到来

倉敷市の将来人口推計値



倉敷市の年齢別将来人口割合

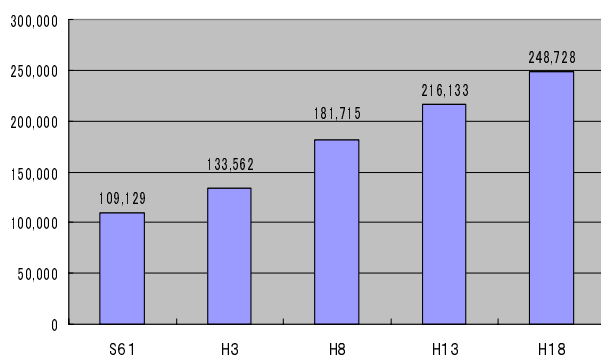


資料：国勢調査（平成12年、平成17年）都市計画マスタープランより

注：平成12年値には、平成17年に合併した浅口郡船穂町、吉備郡真備町も合算して推計

自家用車依存の拡大

市内乗用車在籍台数



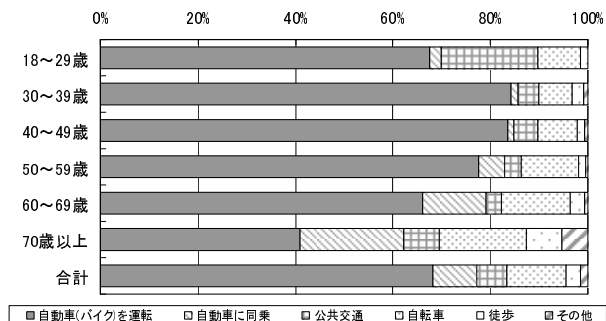
各年 3 月 31 日現在

資料：中国運輸局岡山運輸支局、市税制課

注：乗用軽自動車を含み、船穂・真備町を除く

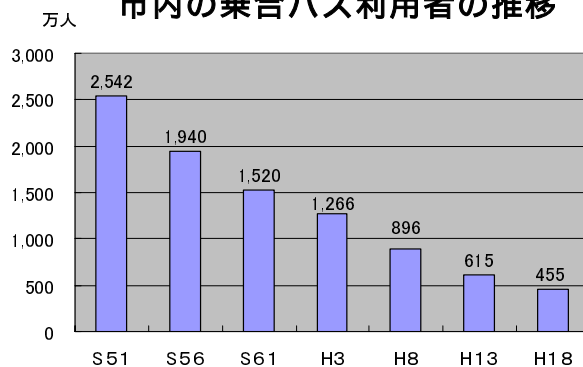
公共交通利用者の減少

外出時の主な交通手段



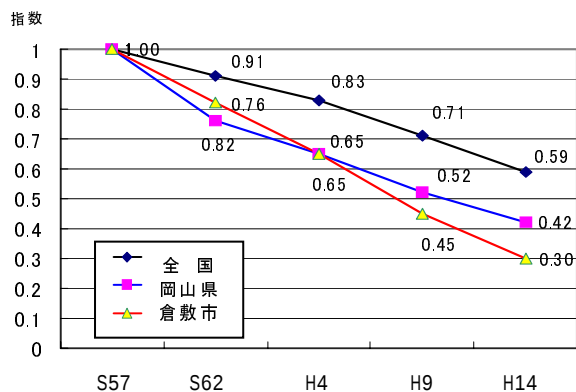
資料：都市計画マスタープランアンケート（H18.9）

市内の乗合バス利用者の推移

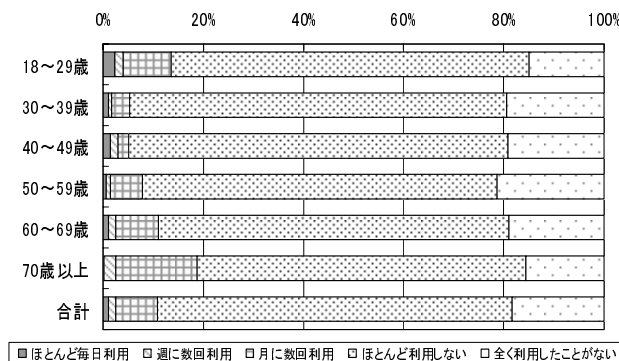


資料：市統計資料

全国・岡山県・倉敷市別の路線バスの輸送実績指数



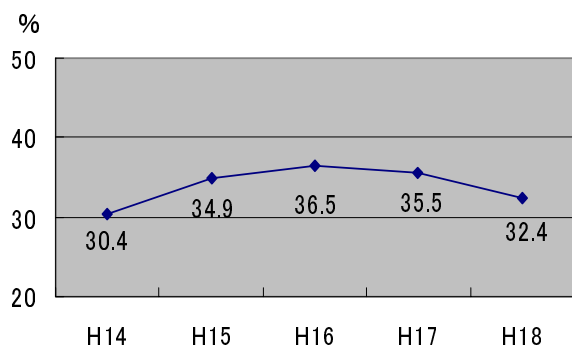
倉敷市のバス利用状況



資料：都市計画マスタープランアンケート（H18.9）

公共交通に対する低い市民満足度

市内の公共交通機関の利便性に対する満足度



住みにくいと感じている理由の経年変化

	1位	2位	3位	4位	5位
昭和55	公害	交通の便	道路整備	買い物の便	災害
昭和60	公害	交通の便	道路整備	風紀	買い物の便
昭和61	交通の便	大気汚染	道路整備	騒音・汚濁	買い物の便
昭和62	交通の便	騒音・汚濁	大気汚染	道路整備	その他
昭和63	交通の便	騒音・汚濁	大気汚染	保守的	道路整備
平成元	大気汚染	交通の便	騒音・汚濁	保守的	道路整備
平成2	騒音・汚濁	大気汚染	道路整備	交通の便	保守的
平成3	交通の便	騒音・汚濁	道路整備	大気汚染	保守的
平成4	道路整備	保守的	大気汚染	交通の便	騒音・汚濁
平成5	交通の便	騒音・汚濁	道路整備	保守的	風気
平成6	道路整備	交通の便	騒音・汚濁	保守的	河川汚濁
平成7	騒音・汚濁	交通の便	道路整備	保守的	その他
平成8	騒音・汚濁	保守的	交通の便	河川汚濁	道路整備
平成9	騒音・汚濁	交通の便	保守的	道路整備	河川汚濁
平成10	交通の便	保守的	騒音・汚濁	道路整備	河川汚濁
平成11	騒音・汚濁	交通の便	保守的	道路整備	河川汚濁
平成12	騒音・汚濁	保守的	交通の便	道路整備	河川汚濁
平成13	騒音・汚濁	交通の便	保守的	道路整備	河川汚濁
平成14	騒音・汚濁	交通の便	保守的	道路整備	河川汚濁
平成15	交通の便	騒音・汚濁	保守的	道路整備	河川汚濁
平成16	交通の便	騒音・汚濁	道路整備	保守的	買い物の便

資料：「倉敷市市民意識調査結果報告書」

「ともにめざそう指標」市民アンケート調査報告書

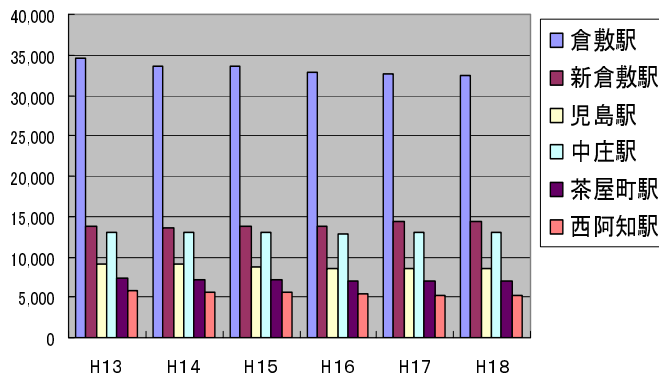
(1) 公共交通ネットワークの現状

- 市内の公共交通網は、鉄道（ＪＲ：山陽本線・伯備線、本四備讃線、井原鉄道、水島臨海鉄道）、路線バス、コミュニティバス（船穂・真備地区）、乗合タクシー（庄新町、西坂、大室・高室・菰池団地の３地区）が運行されている

(2) 鉄道の現状

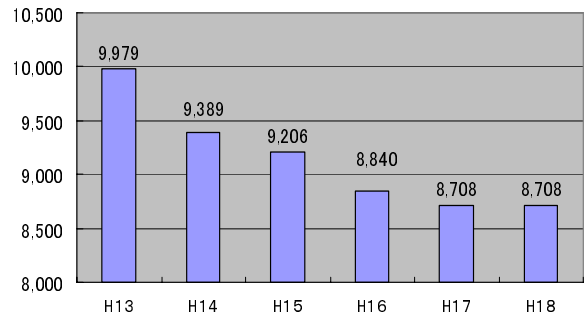
- 市内の鉄道駅は２１駅あり、１日平均９０．８千人（Ｈ１８）の乗降客数があるが、ＪＲ主要４駅の乗降客数は、過去５年間で５～９％減少
- 水島臨海鉄道の乗降客数は、過去５年間で１３％減少
- 井原鉄道の乗降客数は、１日平均０．４千人（Ｈ１８）と少ない状況

市内ＪＲ線主要６駅の年間乗車人員の推移



資料：西日本旅客鉄道

水島臨海鉄道の１日当たりの乗降客数の推移

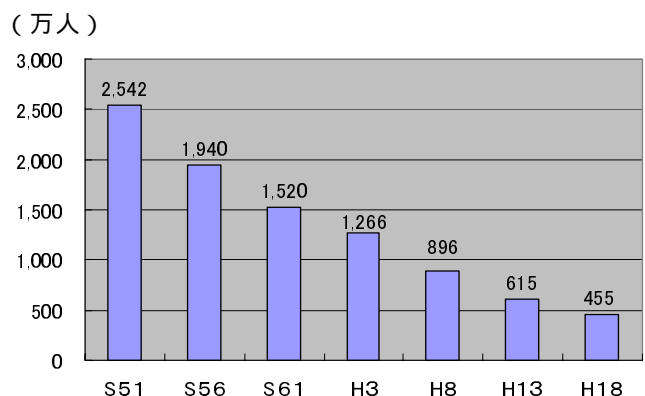


資料：水島臨海鉄道(株)

(3) 路線バスの現状

- １９７６年（昭和５１年）～２００６年（平成１８年）の３０年間で市内の乗合バス利用者は１／５に減少
- 市内の乗合バス７８路線（岡山運輸支局届出系統数）のうち、半分以上の４０路線は５回／日以下の路線
- 平成１４年２月の道路運送法の改正による規制緩和以後、バス事業への参入・撤退が自由化されたことから、平成１４年度以降２２路線が廃止

倉敷市の乗合バス利用者の推移



資料：市統計資料

1 - 2 倉敷市の交通の課題

遅れている都市計画道路整備への対応

- 遅れている都市計画道路整備
- 遅れている中心市街地の環状線の整備
- 倉敷市中心市街地の自動車の通過交通排除

歯止めの効かない公共交通の利用者減少への対応

- 利用者の公共交通離れをいかに食い止めるか
- 車から公共交通への転換は短期的には非常に困難

バス事業の厳しい経営環境に即したバスネットワーク維持への対応

- 高齢化が進む中で、今後予想される自動車が利用できない人の移動手段を確保すべきという、市民の声への対応が必要
- 全体の約8割を占める市民が、市や自治会などで費用負担してでも、公共交通を維持、充実させるべきと考えている
- 運行回数が多い路線は限られた地区のみ運行されているため、利用目的に応じた必要な便数を確保

公共交通の低いサービスレベルへの対応

- 主要なバスネットワーク以外は、今後も廃止撤退していく可能性が高い
- バスネットワークの維持を交通事業者に全面依存することに限界
- 限られた財源の中で、一定の助成ルールをつくる必要性
- 少ない利用者を増やし、効率的に運行
- 公共交通を持続させるための市民・交通事業者・行政の適切な役割分担が必要

公共交通空白地の拡大への対応

- 路線廃止により公共交通空白地が拡大
- 人口密度が比較的高い地域に公共交通の確保が必要

2. 総合交通戦略の方針

基本理念

～市民の暮らしが便利で快適な、活力あるまちを目指して、
みんなで公共交通を「守り」「育て」ます～

基本目標

- 目標1：市民の暮らしを支え、利用目的にあった便利で快適な公共交通を目指します
- 目標2：各拠点を公共交通でしっかり結び、高齢化社会や環境問題に対応できる“くるまに頼り過ぎないまちづくり”を目指します
- 目標3：みんなで「守り」「育てる」公共交通を目指し、地域市民・地域企業、公共交通事業者、行政が一体となって維持・充実に取り組みます

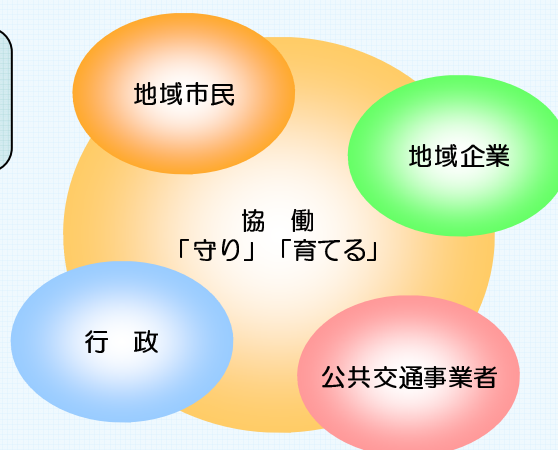


目標達成のための基本的方針

生活交通の維持・充実
各拠点間を結ぶ公共交通の維持・充実
協働による公共交通の維持・充実

地域市民・地域企業、公共交通事業者、行政の役割

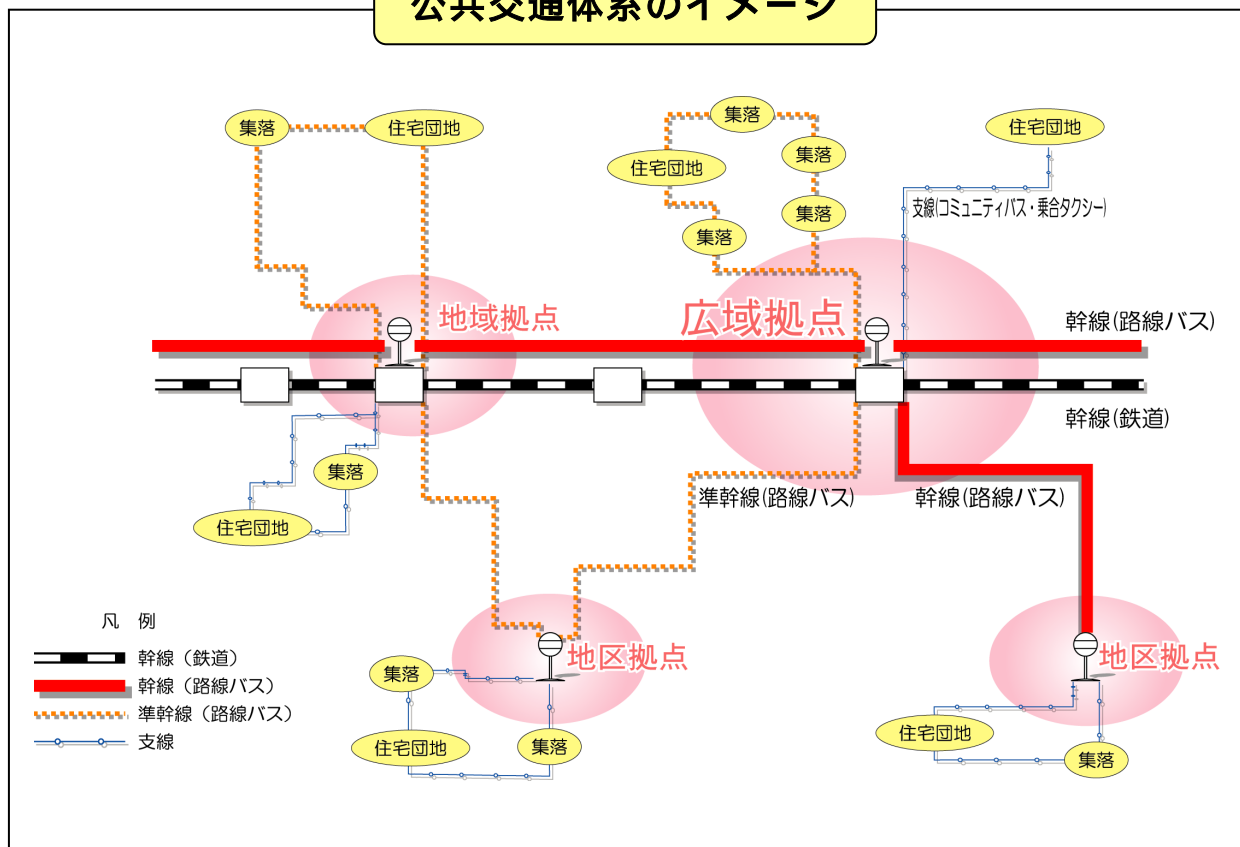
公共交通を、「守り」「育てる」
ために各々の役割を明確にし、
協力しあっていく必要がある



公共交通の分類

分類	特 徴	役 割	対 象
幹線	市の骨格を形成	拠点間の連携強化を図る公共交通	- 全ての鉄道 - 広域拠点と地域・地区拠点間または地域拠点同士を結ぶ路線バスのうち主要な路線
準幹線	幹線を補完し、市の骨格を形成		- 幹線及び支線以外の路線バス - なお、準幹線のうち特定施設への利用が主である路線を準幹線（施設連結型）とする
支線	地域・地区内で日常生活の移動	地域・地区内における公共交通	拠点内を結び、日常生活交通を担う路線バス・コミュニティバス・乗合タクシー

公共交通体系のイメージ



公共交通整備方針

幹 線

幹線としての路線の維持・充実

- 公共交通事業者が主体となり、今後も幹線として、路線の維持・充実を目指す
- 市は効率的で利便性の高い路線を目指し、利用促進につながるハード・ソフトの支援を積極的に実施

● 公共交通事業者の努力

市として運行経費の補助は行わず、公共交通事業者が努力

● ハード・ソフト施策の実施

総合交通戦略（国交省・都市・地域整備局）地域連携計画（国交省・運輸局）に基づく補助を活用し、ハード（結節点機能強化等）ソフト（情報提供、PR等）を実施

準幹線

各種支援による路線の維持・充実

- 公共交通事業者と行政が協力して路線の維持を図り、利用目的（通勤・通学・通院・買物等）とニーズに応じた路線の充実を目指す
- 市は路線を維持するために努力し、一定以上の運行を行う路線に対して、ハード・ソフトの支援に加えて必要に応じた財政的支援を検討

● 新たな市補助制度の策定による路線の維持

必要性やニーズを考慮し一定の基準を設定

● 廃止路線に対しては代替交通により対応

維持が困難で路線が廃止された場合は、地域自主運行型公共交通（乗合タクシー等）の導入による代替交通を検討

支 線

地域主体の路線の維持・充実

- 地域が主体となり、地域と市が協働で支援を行いながら路線を維持し、公共交通空白地域などの移動手段を確保することにより、路線の充実を目指す
- 市は運行するための計画作りなどのソフト支援に加えて必要に応じた財政的支援を行う

● 新たな地域公共交通の導入（乗合タクシー制度の活用）

● 倉敷駅周辺循環コミュニティバスの導入の検討

● 船穂・真備地区コミュニティバスの運行効率化（再編）

3. 目指すべき指標



目指すべき指標

- 公共交通が利用しやすい地域に住んでいる市民の割合
 - 平成18年度の公共交通のカバー圏（駅やバス停留所が近くにあるエリア）を維持する。

【人口カバー率53.6%を維持】
- 公共交通（鉄道・路線バス・乗合タクシー）利用者数
 - 平成18年度の公共交通利用者数を維持する。

【利用者数2,117万人を維持】
- 公共交通利用者の満足度
 - アンケート調査による平成24年度の満足度を、平成18年度より1割増加させる。

【32.4%を35.6%に増加】

4. 「守り」「育てる」ための施策

4-1 公共交通に対する施策展開の方針

- 1 幹線は、拠点間を結び、都市骨格の形成に重要な役割を担う交通手段で、地域連携強化を図るために維持・充実します。
- 2 準幹線は、生活に必要な交通手段で、利用目的や利用者ニーズに応じ、路線を維持します。
- 3 支線は、地域・地区内で日常生活を担う交通手段であるため、地域が主体となり、地域住民が使いやすい交通手段を市と協働により確保します。
- 4 公共交通の利便性および快適性を図るための整備を行います。
- 5 環境に対する地域市民や地域企業の意識を変革し、自家用車から公共交通利用への転換を促進していきます。
- 6 協働による公共交通の利便性の高い運行を目指します。

事業計画図



実施計画

施 策	事業及び名称	事業種別	交通機関	実施時期
走行環境の改善	1 都市計画道路生坂二日市線整備事業	ハード	バス	短期 [H6～21]
	2 都市計画街路旭町西田線整備事業	ハード	バス	中期
	3 JR山陽本線等倉敷駅付近連続立体交差事業	ハード	鉄道・バス	長期
公共交通結節点の機能強化	4 児島駅前広場整備事業 (潮風の快適交流都市・児島地区都市再生整備計画) [まちづくり交付金事業]	ハード	鉄道・バス	短期 [H18～20]
	5 鉄道・バスの乗換え拠点の整備	ハード	鉄道・バス	中・長期
移動円滑化のためのバリアフリー化	6 倉敷駅周辺地区誘導案内施設整備事業 (倉敷駅周辺地区都市再生整備計画)[まちづくり交付金事業]	ハード	鉄道・バス	短期 [H19～21]
	7 児島駅周辺地区誘導案内施設整備事業 (潮風の快適交流都市・児島地区都市再生整備計画) [まちづくり交付金事業]	ハード	鉄道・バス	短期 [H20～22]
	8 新倉敷駅周辺地区誘導案内施設整備事業 (玉島地区都市再生整備計画)[まちづくり交付金事業]	ハード	鉄道・バス	短期 [H20～23]
	9 新倉敷駅北広場歩道上屋整備事業 (玉島地区都市再生整備計画)[まちづくり交付金事業]	ハード	鉄道・バス	短期 [H20～23]
	10 中庄駅エレベーター設置事業	ハード	鉄道	短・中期
	11 西阿知駅エレベーター設置事業	ハード	鉄道	短・中期
利便性及び快適性の向上	12 水島臨海鉄道駅駐輪場整備	ハード	鉄道	短期
	13 バス停留所の整備	ハード	バス	短・中・長期
	14 新駅設置の検討	ハード	鉄道	長期
	15 水島臨海鉄道の貨物線の旅客化(鉄道の延伸)	ハード	鉄道	長期
	16 井原鉄道の倉敷駅乗り入れ(鉄道の延伸)	ハード	鉄道	長期
	17 全社共通(鉄道・バス)共通マップ・時刻表等の作成	ソフト	鉄道・バス	短期
	18 公共交通の情報提供	ソフト	鉄道・バス	短期
	19 誘導案内サイン等の整備	ソフト	鉄道・バス	短期
	20 鉄道・バス共通ICカード化	ソフト	鉄道・バス	長期
	21 市街地循環コミュニティバス事業 (倉敷駅周辺地区都市再生整備計画)[まちづくり交付金事業]	ソフト	バス	短期 [H18～21]
交通空白地への交通手段確保	22 地域自主運行交通の導入支援	ソフト	バス	短・中・長期
環境負荷の軽減及び利用促進	23 水島臨海工業地帯の事業所を対象としたモビリティ・マネジメント事業	ソフト	鉄道・バス	短・中期
新技術導入の研究	24 デュアル・モード・ビークル導入の研究	ソフト	鉄道	長期

4 - 3 評価・改善の仕組み

